

プレゼンテーション資料における CG・イラスト活用のポイント

照明提案において、写真や姿図、照度分布図だけでなく、CG画像やイラストを用いることで提案をするお客様へより伝わりやすく、またビジュアル的なインパクトを与えることもできます。

そのためには立体物を画像にするソフトや、イラストを作成する、画像処理を行うなど様々なソフトのスキルと作業時間が必要になります。目的に合わせてそれらを使い分けることで、配光を考慮した光や多彩な色合いを表現し、より具体的なイメージの提案が可能になります。

プレゼンテーション資料におけるCG・イラスト活用の3つの素材

- 1 提案する照明器具が分かるような写真や姿図
- 2 照明器具の設置場所を表記するための配灯図
- 3 照度や光の広がりを見るための照度分布図

その他にも照明器具の説明や配灯をする際のコンセプトなどがありますが、ここでは、上記の3項目を、CG画像・イラストに置換えて表現する方法をご説明します。

作成するには、照度分布などのデータを基にして表現する対象を明確にします。

また、提案内容に対して作業時間が適正かどうかなど、必要性を判断しなければいけません。

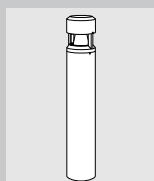
作業をする際に必要となるポイントはたくさんありますが、今回は前提となる上記の3つの素材をCG・イラストを用いて表現します。

提案に必要な主な素材

1 提案する照明器具が分かるような写真や姿図



HG-41107-T1



EFX-21500KL



HG-07003



HT4030M(K)

提案する照明器具の外観を明確にするために左記のような写真や姿図を貼付けすることがあります。

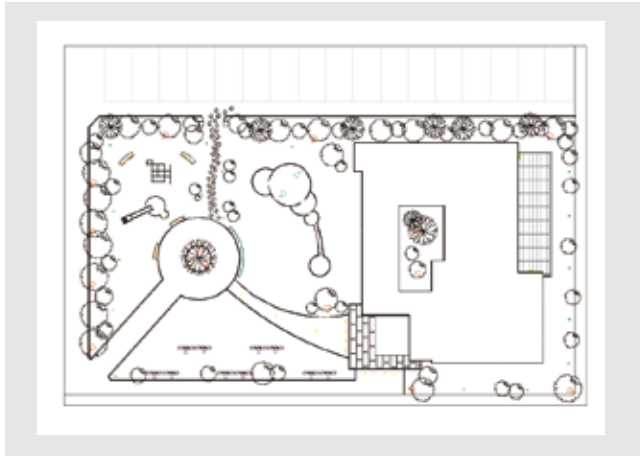
このような画像を載せると照明器具の形状などは理解できますが、CGやイラストと組み合わせると、スケール感や雰囲気などがより分かりやすくなります。

また、特注照明器具のイメージを伝わりやすくし、風景の写真などと組み合わせることで設置イメージを確認でき、その環境に適しているかなどを検討することも可能です。

その一例を挙げてご説明します。

提案に必要な主な素材

2 照明器具の設置場所を表記するための配灯図



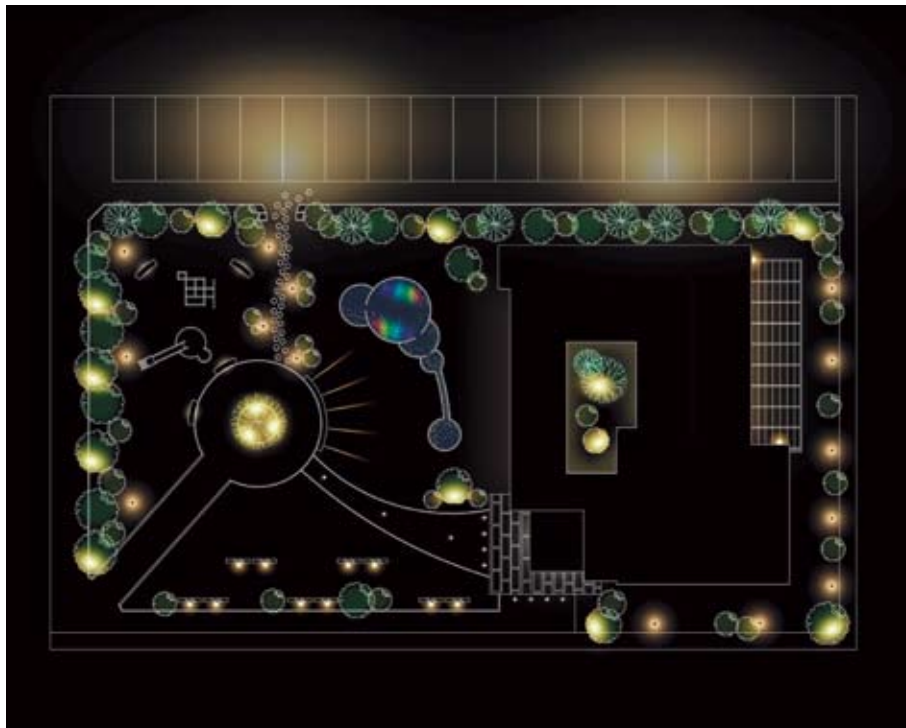
左記の様な図面に照明器具の凡例を載せた配灯図は簡潔的で分かりやすいのですが、器具の形と色だけで示されているので強調したい場所がどこなのか、光の出方、ストーリー性などが伝わりにくい場合があります。

光の出方やイメージを的確に伝えたい、相手をより惹きつけたい場合は、陰影の暗い色と光の明るい色を効果的に表記することが有効です。

作成の方法は多様ですが、ここでは2Dにおいて表現します。

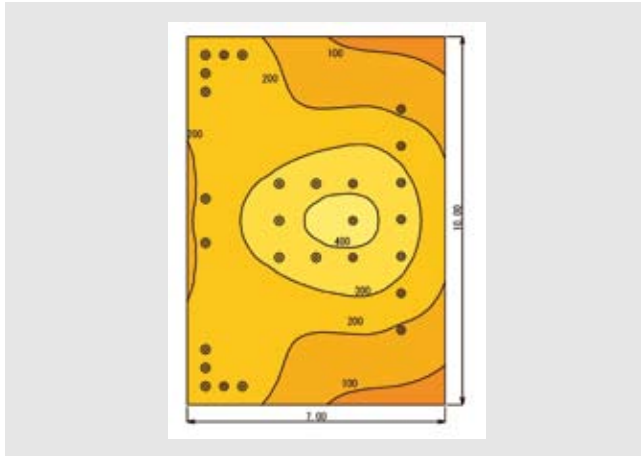
Case 1 暗い色と明るい色で光の位置を示します。コントラストを適材適所に表現することで光のコンセプトや意図を伝えます。また、色の明暗による視覚的効果も有効です。

使用ソフトの種類:イラスト作成ソフト



提案に必要な主な素材

3 照度や光の広がりを見るための照度分布図



照度の単位:ルクス(lx)を使って明るさを表す照度分布図は、照明の提案上欠かせないものの一つです。

左記のような照度値の線でも、部位の明るさを知ることができますが、さらに相手に伝わりやすくする場合はCGの光を使用して光の出方、広がりを表現します。

光の出方を表す配光データを3次元の建築データと組み合わせることで、より実際の光の出方を把握することができます。

3D画像と照度画像で表現します。

Case 1 立体的に光の出方や広がりの変化を把握することができます。

使用ソフトの種類:3D作成ソフト



専用のソフトで作成したCGを照度の画像で検討します。

